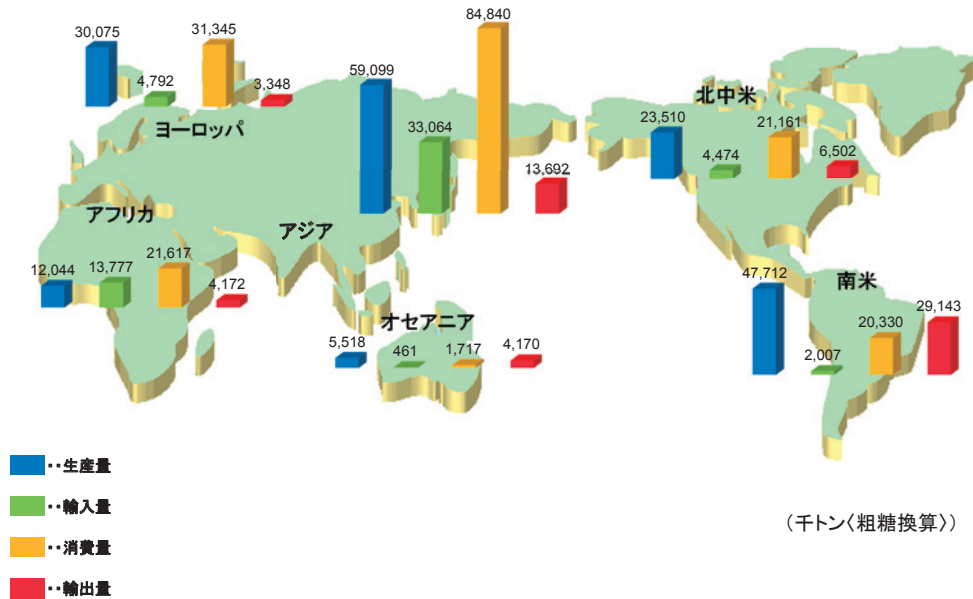


砂糖の国際需給

調査情報部 丸吉 裕子

1. 世界の砂糖需給 (2017年3月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2016/17年度予測値)



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,March 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)
 注1：年度は2016年10月～翌9月。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,518	151,603	49,849	161,842	50,974	60,155	37.2
2012/13	64,079	184,166	59,150	171,636	61,545	74,214	43.2
2013/14	74,214	181,496	58,461	175,802	59,205	79,164	45.0
2014/15	79,164	180,683	58,414	178,723	59,548	79,990	44.8
2015/16	79,990	174,678	62,976	180,028	66,611	71,005	39.4
2016/17 (2016年12月予測)	69,832	177,435	58,541	183,701	59,849	62,258	33.9
2016/17 (2017年3月予測)	71,005	177,958	58,575	181,009	61,027	65,503	36.2

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, March 2017」
 注1：年度は国際砂糖年度(10月～翌9月)。
 注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。
 注3：期末在庫量は(期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量)である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2017年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2017年4月号をご参照ください。

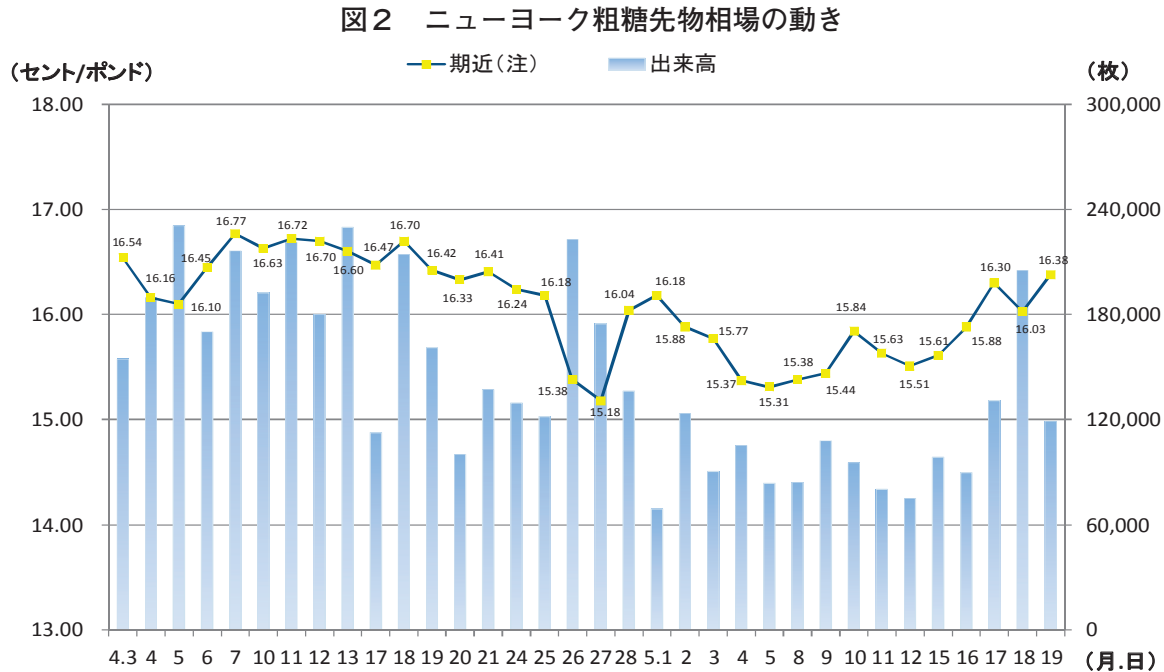
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001466.html

「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001467.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き (4/3 ~ 5/19)

～供給過剰予測などから、1ポンド当たり15.18セントまで下落～



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：4月は期近5月限、5月は期近7月限。

ニューヨーク粗糖先物相場（期近5月限）の2017年4月の推移を見ると、2017/18年度に世界の砂糖供給が過剰に転ずるとの予想などが下げ要因となり、5日には1ポンド当たり16.10セントまで値を下げたものの、米軍によるシリア攻撃の影響で原油先物相場が上昇したことなどを受け、7日は同16.77セントとなった。しかし、その後は世界の砂糖需給が緩むとの見通しから弱含みで推移し、17日には同16.47セントとなった。18日は、ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB) (注1) が2017/18年度のサトウキビ生産量は減少に転じ、砂糖生産量は前年度並みとの見通しを発表したことから、同16.70セントに値を上げたものの、世界の砂糖需給の緩和見通しが再び強まったことやブラジルでの順調なサトウキビ収穫状況が圧迫材料となり、27日には同15.18セントまで落ち込んだ。翌28日に

は同16.04セントに急反発し、5月限は納会した。

新たな限月（期近7月限）となる5月に入ると、1日は同16.18セントに続伸したものの、上昇材料がない中、5日には同15.31セントまで下げた。その後は、ブラジル通貨レアルの対米ドル高やブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA) (注2) が発表した4月の砂糖の生産実績が前年度より減少したことが下支えとなり、10日には同15.84セントに値を上げた。その後12日にかけて、レアル安が進んだことから相場は下落したが、レアルが下げ止まったとみられたことから、19日には同16.38セントまで上昇した。

(注1) 主要作物の生産状況報告や予測などを行っているブラジル農務省直轄の機関。

(注2) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年5月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）

生産量：6億4763万トン（同1.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4070万トン（同0.4%増）

輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する大手民間調査会社）の2017年5月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、905万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加が見込まれているものの、サトウキビの新植が進まず単収は低下するため、生産量は6億5718万トン（同1.3%減）とわずかな減少が見込まれている（表2）。

一方、砂糖生産量は、国際砂糖価格の上昇により、企業がサトウキビを砂糖へ仕向ける割合が増加したことに加え、製糖歩留まりが向上していることなどから、4053万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）、同15.2%増とかなりの増加が見込まれている。こうした砂糖の増産に伴い、輸出量は過去最高の2874万トン（同14.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18年度のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少し、生産量は単収の増加から、6億4763万トン（同

1.5%減）の減少にとどまると見込まれている。

このため、砂糖生産量も、4070万トン（同0.4%増）と前年度並みにとどまると見込まれる。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、国際的な砂糖の輸入需要の緩やかな減少に伴い、2870万トン（同0.1%減）と見込んでいる。

2017/18年度の生産見通しについては、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）が4月18日、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が4月26日、それぞれ公表している。

なお、UNICAが発表した2017年4月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は4171万トン（前年同月比39.7%減）、砂糖生産量は183万トン（同43.8%減）と大幅に減少している。これは、天候不順により収穫が遅れていたことに加え、サトウキビ1トン当たりの産糖量が43.8キログラム（同6.9%減）とやや減少しているためとみられる。同報告によると、エタノール生産量も、162万キロリットル（同41.9%減）と大幅に減少した。一方、輸出量も含めたエタノールの販売量は、173万キロリットル（同2.8%増）となった。このうち、含水エタノール^(注)の国内販売量は、エタノール価格が下落してきたことから、前年度並みの96万キロリットルに回復した。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、同月の含水

エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.44リアル（85円〈4月末日TTS：1リアル=35円〉）と前年同月の同2.56リアル（90円）に比べ、下落した。

また、UNICAは5月22日、同日に中国政府が砂糖の輸入関税の引き上げを発表したことを受け、今後12カ月間のブラジル産砂糖の中国向け輸出量が、当初予測の300万トンから220万トンに減少するとの見通しを示した。今後、ブラジル政府は、中国政府との協議の進展によっては、WTOにパネル（小委員会）の設置を要求する可能性もある。

現地報道によると、政府は5月上旬、6月までエタノールの輸入関税（20%）の2010年来の再導入を検討することを明らかにした。政府は、北東部の砂糖エタノール製造企業から、国内のエタノール

生産量の減少などにより、米国からのエタノール輸入量が急増している状況を受け、国内産業の保護を要請されていた。しかし、再導入した場合、国内のエタノール価格が高騰するとともに、世界のエタノール貿易に影響を与え得ることから、慎重に検討することとしている。

（注）自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (4月予測)	2016/17 (5月予測)	前年度比 (増減率)	2017/18 (4月予測)	2017/18 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,111	9,049	4.6	9,148	8,839	▲ 2.3	
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	681,952	657,184	▲ 1.3	684,748	647,626	▲ 1.5	
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,600	40,534	15.2	40,766	40,700	0.4
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	11,800	11,850	11,700	▲ 0.8	11,800	11,800	0.9
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,740	28,740	14.4	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,296	2,543	813	623	906	11.5	890	1,106	22.1
	期末在庫率	18.2	20.5	6.9	5.3	7.7	12.4	7.5	9.4	21.0

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, May 2017]

（参考）ブラジルの団体別生産見通し

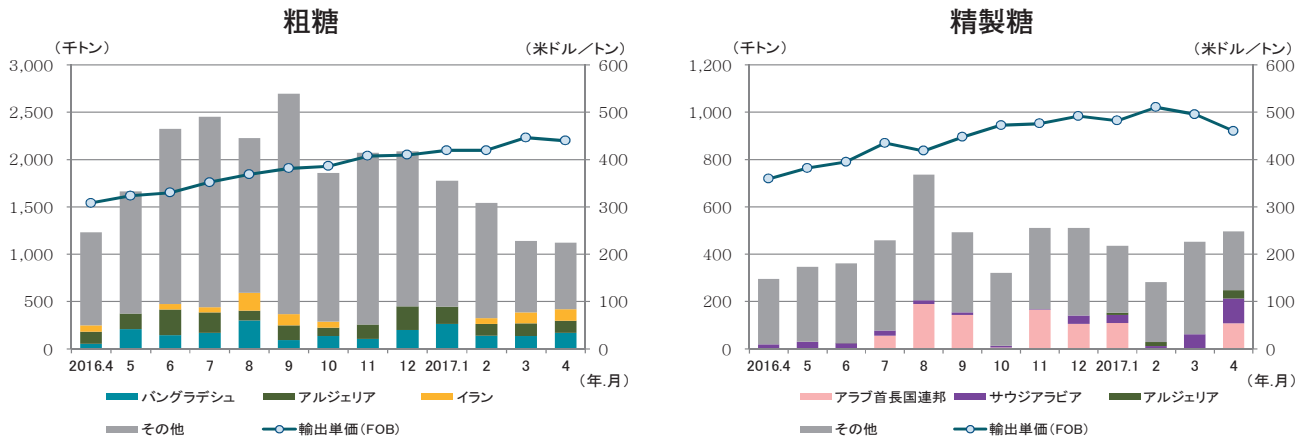
（単位：千ha、千トン、千キロリットル、%）

年度	ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB)			ブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA)		
	2016/17	2017/18	前年度比 (増減率)	2016/17	2017/18	前年度比 (増減率)
収穫面積	9,049	8,839	▲ 2.3	-	-	-
サトウキビ生産量	657,184	647,626	▲ 1.5	607,137	585,000	▲ 3.6
砂糖生産量	38,691	38,702	0.0	35,628	35,200	▲ 1.2
エタノール生産量	27,808	26,451	▲ 4.9	25,652	24,700	▲ 3.7

資料：CONABおよびUNICAの資料を基に、機構作成

注：CONABは全域、UNICAは中南部地域の予測値（2017年5月時点）。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）
生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：2210万トン（同19.3%減）
輸出量：165万トン（同59.9%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。さらに、砂糖生産量も、2210万トン（同19.3%減）と製糖歩留まりの低下により大幅な減少が見込まれている（表3）。インド砂糖製造協会（ISMA）が3月初旬に発表した見通しによると、1～2月にかけてマハラシュトラ州やカルナタカ州などで当初の予想以上に単収が低下していることなどから、同年度の砂糖生産量は、精製糖換算で2030万トンと見込まれている。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図るた

め、2016年6月中旬以降、砂糖の輸出（粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除く）に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、4月中旬には、貿易業者に対する砂糖在庫量の上限の設定期限を2017年4月末から同年10月末まで延長することを公表した。これらにより、砂糖輸出量は、165万トン（前年度比59.9%減）と大幅に減少し、砂糖輸入量は、212万トン（同11.1%増）とかなり増加すると見込まれている。

中央政府は4月、6月30日までに輸入される粗糖50万トンについて無税での輸入を許可することを公表した。当該措置は、干ばつにより砂糖生産量が大幅に減少し、消費量を下回ると見込まれること、また、マハラシュトラ州の製糖企業らによる再輸出用粗糖100万トンの輸入申請が行われたことなどをを受けて実施されることとなった。

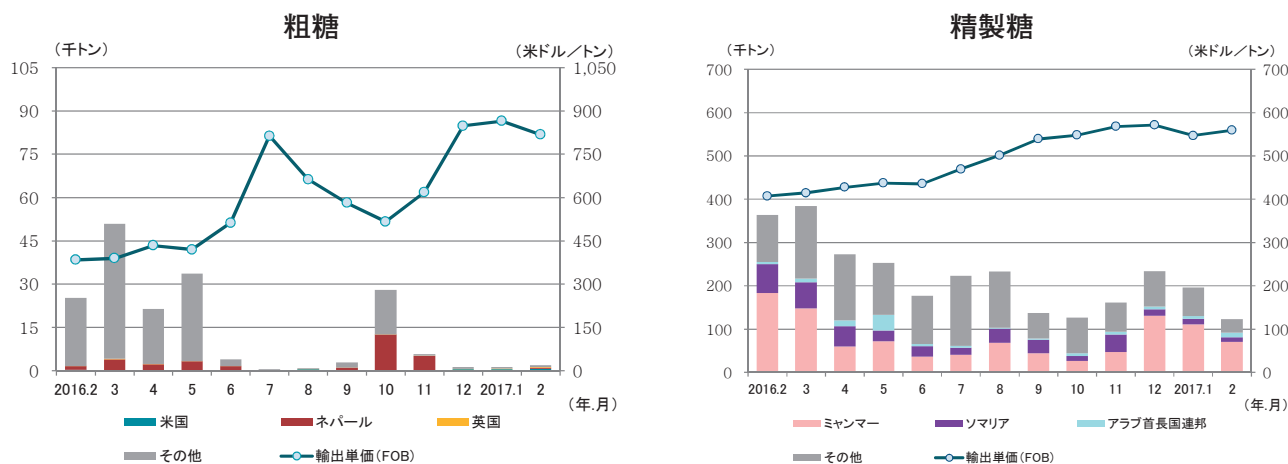
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (4月予測)	2016/17 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	22,000	▲ 19.3
	輸入量	1,349	1,303	1,904	2,115	11.1
	消費量	26,295	27,842	27,011	26,304	▲ 2.6
	輸出量	2,742	2,608	4,105	1,623	▲ 59.9
	期末在庫量	8,223	9,692	7,851	3,224	▲ 47.6
	期末在庫率	31.3	34.8	29.1	12.3	15.6

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, May 2017]

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha (前年度比10.0%増)・15万ha (同10.0%増)
生産量：1億2652万トン (同7.9%増)・771万トン (同5.0%増)

【砂糖 (甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：992万トン (同4.8%増)
輸入量：452万トン (同27.1%減)

2016/17年度の砂糖生産量はやや増加、 輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度 (10月～翌9月) は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール (前年度比10.0%増)、生産量が1億2652万トン (同7.9%増) と、ともにかなりの増加が見込まれている (表4)。これは、最大生産地域である広西チワ

ン族自治区や海南省における栽培面積の増加と良好な生育状況が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール (同10.0%増) とかなり増加し、生産量は771万トン (同5.0%増) とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、

992万トン（同4.8%増）とやや増加が見込まれている。

また、中国砂糖協会（CSA）が発表した2016年10月～翌4月の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で915万トン（前年同期比7.0%増）とかなり増加した（図3）。これは、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しゅ糖が810万トン（同5.1%増）、てん菜糖が105万トン（同24.7%増）と、ともに増加したことによる。

さらに、中央政府は1月、備蓄砂糖約25万トンを国内企業へ売り渡した。これにより、2016年10月から4回の入札が実施され、1月時点で合計約65万トンが売り渡されたこととなる。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。このため、砂糖輸入量は、452万トン（前年度比27.1%減）と大幅な減少が見込まれている。

中央政府は5月22日、2016年9月から実施し

た砂糖の輸入先国によるダンピング疑惑の調査^(注1)の結果を踏まえ、2016/17年度中に、WTO協定に基づく関税割当（194万トン、関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率を、現行の50%から95%まで引き上げることを公表した^(注2)。この引き上げられた枠外輸入関税率は、毎年度5%ずつ引き下げられる予定であるが、ブラジルなどの主要輸入先国に対する影響やミャンマーなどからの「非公式な」砂糖の流入および第三国経由での輸入増加が懸念されている。

(注1) 海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして実施した調査であり、対象は、輸入量が急増した2011年以降で、粗糖の上位輸入先国であるブラジルおよび豪州ならびに精製糖の主要輸入先国である韓国などが対象国となっていた。

(注2) フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国などは、対象外とみられている。

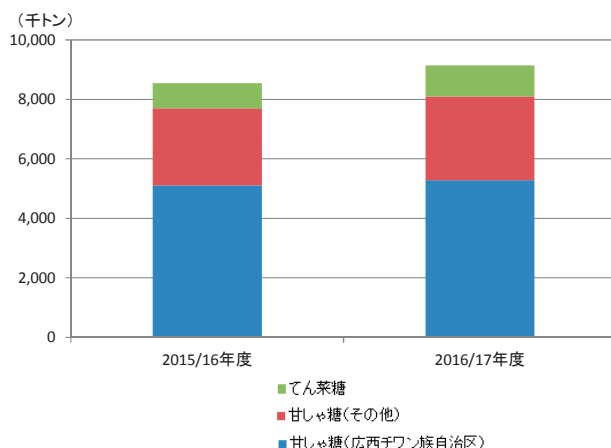
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (4月予測)	2016/17 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,688	9,916	4.8
	輸入量	4,054	5,354	6,199	4,150	4,520	▲ 27.1
	消費量	16,150	16,600	17,283	17,250	16,739	▲ 3.1
	輸出量	51	64	167	83	85	▲ 49.3
	期末在庫量	7,141	7,305	5,513	3,237	3,125	▲ 43.3
	期末在庫率	44.2	44.0	31.9	18.8	18.7	▲ 41.5

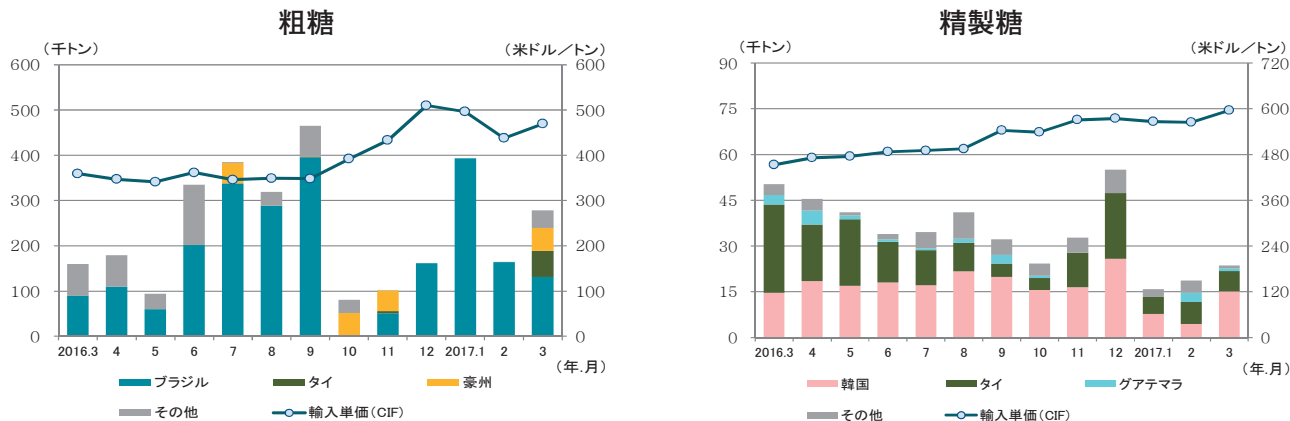
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, May 2017」

図3 中国の砂糖生産実績（10月～翌4月の生産量）



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）

生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1694万トン（同12.8%増）

輸入量：272万トン（同27.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017

年10月以降の生産割当廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっているとみられる一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られている。記録的な生産量となった前々年

度に比べ、春先の低温や降雨のため単収が低下すると見込まれているものの、前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1694万トン（同12.8%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖の増産や域内の砂糖価格の下落に伴い、砂糖輸入量は、272万トン（同27.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は、EU市場の砂糖供給量不足を解消するための一時的な輸入関税引き下げ措置の実施に関する決議案について、砂糖業界の反対を受けて取

り下げた。欧州砂糖製造者協会（CEFS）や欧州てん菜生産者協会（CIBE）など業界団体6者は4月24日、共同で声明を発表し、ブラジルなどからの砂糖輸入量の減少は、過年度にわたり域内の砂糖在庫量が高水準にあったことによる砂糖価格の低下が要因と考えられ、生産割当廃止以降も増産に伴う価格下落が予想されている中での一時的な措置の導入は、市場への影響を予測できない「無謀な賭け」であり、域内の砂糖産業が続けてきた長年の努力に対する「裏切り行為」になり得ると強く非難していた。

表5 EUの砂糖需給の推移

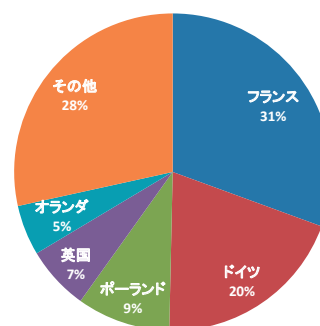
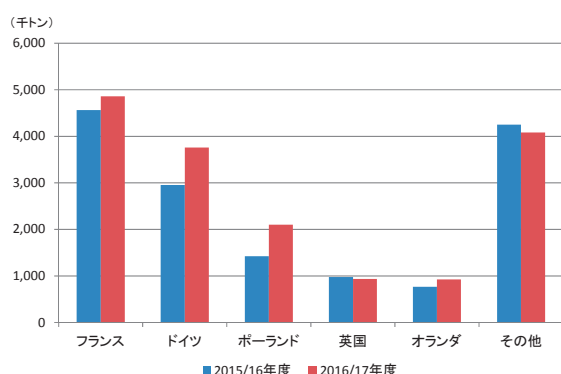
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (4月予測)	2016/17 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8	
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7	
砂糖	生産量	17,123	19,147	15,011	17,069	16,938	12.8
	輸入量	3,944	3,456	3,750	3,200	2,720	▲ 27.5
	消費量	19,286	19,245	18,719	18,954	18,740	0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,504	1,300	▲ 13.7
	期末在庫量	8,799	10,599	9,135	8,804	8,753	▲ 4.2
	期末在庫率	45.6	55.1	48.8	46.4	46.7	▲ 4.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, May 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

（参考）EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値（2016年12月時点）。

注3：生産割合は2016/17年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2017年5月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。

豪州

2016/17年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比3.2%増）

生産量：3550万トン（同1.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：523万トン（同3.3%増）

輸出量：400万トン（同3.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はやや増加するも 輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。サトウキビの増産に加え、製糖歩留まりの向上も見られることから、砂糖生産量は523万トン（同3.3%増）とやや増加が見込まれている。一方、中国向けの減少などに伴い、輸出量は400万トン（同3.8%減）とやや減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)は3月7日、2016/17年度および2017/18年度の生産見通しを発表した。これによると、2016/17年度の砂糖生産量は、収穫面積の拡大に伴うサトウキビ生産量の増加により、509万トン（同3.4%増）とやや増加が見込まれ、また、砂糖輸出量も429万トン（同3.6%増）とやや増加が見込まれている。2017/18年度も、引き続き、サトウキビの収穫面積の拡大および生産量の増加が予想されることから、砂糖生産量は516万トン（同1.5%増）とわずかな増加が予想されているが、砂糖輸出量は、430万トン（同

0.2%増）にとどまると予想されている。

現地報道によると、2017/18年度以降の新たな輸出契約に関するクイーンズランド（QLD）州砂糖公社（QSL）^(注)との交渉が難航していた製糖企業1社が5月上旬、QSLと合意に達した。これを受け、QLD州北部のサトウキビ生産者は、サトウキビの収穫開始を遅らせないように、同社とのサトウキビ供給契約の締結を2週間程度で完了させることを目指している。これにより、QLD州の砂糖産業でおよそ2年にわたり続いていた紛争が収束に向かうこととなった。

また、中国系企業は4月中旬、QLD州ロッキーポイントのサトウキビ生産者とブリスベンからゴールドコーストにかけての約6000ヘクタールの農地の売却に関する交渉を開始した。これが実現すれば、外資系企業に対する農地の売却としては国内最大規模になるとみられる。なお、同企業は近接する製糖工場の運営についても検討しているとの報道もある。

(注) QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を扱っていたが、2015年の砂糖産業法改正により、2017/18年度以降、製糖企業を介してQSLが輸出する従来の形態に加え、砂糖を輸出する企業を生産者が選択できるようになった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (4月予測)	2016/17 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,500	35,500	1.9
砂糖	生産量	4,306	4,780	5,067	5,233	3.3
	輸入量	159	170	76	110	45.3
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,355	0.4
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,995	▲ 3.8
	期末在庫量	1,162	1,074	716	708	▲ 1.0
	期末在庫率	86.3	79.6	53.0	52.3	▲ 1.4

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, May 2017」

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）
生産量：9300万トン（同1.1%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1030万トン（同2.7%増）
輸出量：722万トン（同7.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量はわずかに増加、 輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、単収の低下が見込まれることから、生産量は9300万トン（同1.1%減）とわずかな減少が見込まれる（表7）。

しかし、砂糖生産量は、長引く干ばつの影響があったものの、製糖歩留まりの向上が見られることなどから、1030万トン（同2.7%増）とわずかな増加が見込まれている。また、輸出量は、中国向けの減少などに伴い、722万トン（同7.5%減）とかなりの減少が見込まれている。

タイ製糖協会によると、5月3日までに2016/17年度のサトウキビの压榨が終了し、同年度のサトウキビ压榨量は9295万トン（同1.2%減）とわずかに減少した。干ばつの影響によるサトウキビの減産に伴い、サトウキビ压榨量が前年度比で8%減少した工場も見られた。

また、政府は、2017/18年度からの適用を目指

し、砂糖産業関連法の改正^(注1)に向けた手続きを行っている。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当^(注2)は廃止され、政府が設定している国内砂糖価格は固定制から変動制に移行するものとみられる。なお、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^(注3)によると、改正法は、遅くとも2018年4月までに施行される。

(注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

(注3) タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

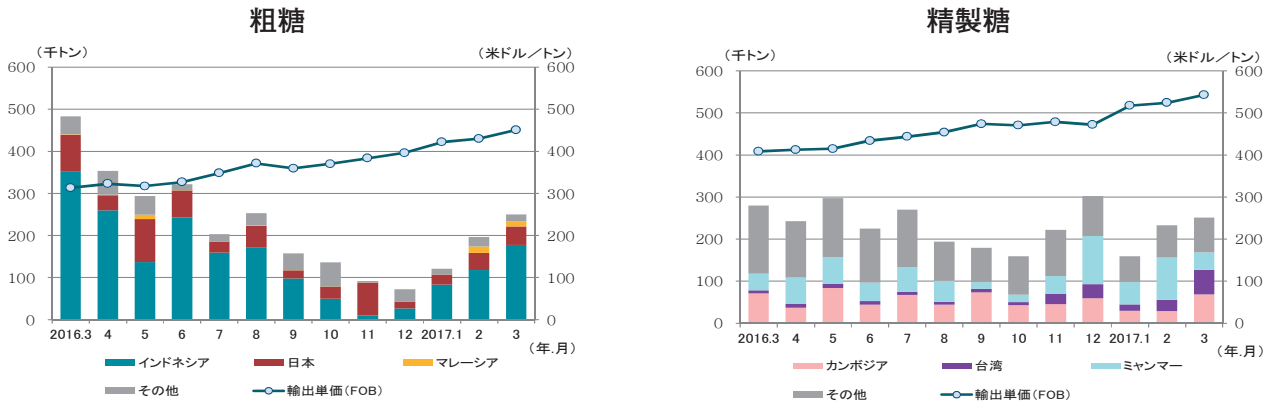
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (4月予測)	2016/17 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	104,363	93,000	▲ 1.1
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,300	2.7
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,294	▲ 7.5
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	4,014	▲ 9.3
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	114.7	▲ 9.3

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, May 2017]

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

フィリピン

2016/17年度(9月～翌8月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：42万ha (前年度比0.4%増)

生産量：3062万トン (同0.7%減)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：210万トン (同6.2%減)

輸出量：11万トン (同33.2%減)

2016/17年度の砂糖生産量はかなり減少、輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度(9月～翌8月)のサトウキビ収穫面積は42万ヘクタール(前年度比0.4%増)、生産量は3062万トン(同0.7%減)と、ともに前年度並みと見込まれている。しかし、製糖歩留まりの低下が見られることから、砂糖生産量は210万トン(同6.2%減)とかなりの減少が見込まれている(表8)。

砂糖統制委員会(SRA)^(注1)が発表した2016年9月～翌4月の生産実績報告によると、サトウキビ圧搾量は2308万トン(前年同期比0.8%減)となった。製糖歩留まりの低下に伴い、粗糖生産量は208万トン(同6.9%減)とかなり減少した。

また、SRAは3月下旬、2016/17年度の砂糖の割当数量について、国内供給向けを砂糖生産量の94%から74%に引き下げ、米国輸出向け^(注2)に加え、同20%を輸出向けに割当を変更した。SRA

はこの背景として、米国向け輸出が停滞していることや、特に清涼飲料水用の中国産異性化糖の輸入の増加により砂糖在庫量の増加が見込まれ、国内価格の低下が予想されていることを挙げている。

ただし、4月時点で米国向けについても輸出実績がないことから、砂糖輸出量は、11万トン（前年

度比33.2%減）と大幅な減少が見込まれているが、今後予測値は修正される可能性もある。

（注1）砂糖の供給管理政策など国内砂糖産業の管理・監督などを実施する政府機関。

（注2）米国向けは、特恵的な関税枠を有しており、砂糖生産量の6%が割り当てられている。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (2月予測)	2016/17 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	435	435	420	422	422	0.4
サトウキビ生産量	31,874	32,369	30,849	30,619	30,619	▲ 0.7
砂糖	生産量	2,451	2,321	2,239	2,100	▲ 6.2
	輸入量	25	36	242	300	20.0
	消費量	2,369	2,436	2,348	2,350	0.1
	輸出量	369	47	168	140	▲ 33.2
	期末在庫量	666	541	506	516	▲ 14.2
	期末在庫率	28.1	22.2	21.5	21.9	▲ 14.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, May 2017」